

## 会 議 録

会議の名称	平成23年度第2回所沢市地域福祉推進検討委員会
開催日時	平成24年2月20日（月） 午前10時～11時50分
開催場所	市役所高層棟7階 研修室
出席者の氏名	榎本委員 岡村委員 小原委員 神武委員 河原委員 柴井委員 豊田委員 仲田委員 羽鳥委員 福田委員 前橋委員 松本委員 黛委員 山江委員 吉田委員
欠席者の氏名	
説明者の職・氏名	こども未来部こども支援課長 二上 清次 コミュニティ推進課まちづくりセンター推進室長 堀内 光政 所沢市社会福祉協議会 地域福祉企画課 主任 梅本 晶絵
議 題	(1) 地域福祉計画に関わる事業の進捗状況について（報告） (2) 提言書作成に向けての検討 (3) （仮称）所沢市総合福祉センター（複合施設）について (4) その他
会 議 資 料	平成23年度第2回所沢市地域福祉推進検討委員会次第 ・【事前送付】「計画の推進に関わる施策調査一覧表」 ・【事前送付】『（仮称）所沢市総合福祉センター（複合施設）基本計画（素案）』 ・「地域福祉ネットワーク会議の取り組み」 ・「まちづくりセンターを開設しました」 参考資料 ・「所沢市地域福祉計画の推進施策に関する提言書」（平成23年3月30日） ・「所沢市地域福祉計画」（平成17年3月） ・「地域福祉計画の体系」 ・「地域コミュニティのためのネットワークづくりに向けて」 ・「『新たな地域コミュニティの構築』に向けた推進プラン」
担 当 部 課 名	保健福祉部福祉総務課 電話04（2998）9113 保健福祉部長 内藤 隆行 保健福祉部次長 本橋 則子 福祉総務課長 美甘 寿規 福祉総務課主幹 山崎 礼子 福祉総務課副主幹 水村 一男 福祉総務課副主幹 北田 裕司 福祉総務課主任 井上 大樹 福祉総務課主事 持丸 裕子

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
美甘課長 （司会）	<p style="text-align: center;"><b>1. 開 会</b></p> <p>会議を開会した。</p>
前橋会長	<p style="text-align: center;"><b>2. 会長挨拶</b></p> <p>「今回の第3期地域福祉推進検討委員会は、計画がスムーズに進むよう、第2期で提言された内容の進行状況をチェックしていただくとともに、総合福祉センターの建設が開始される状況の中で、会議の回数は少ないですが、協力し合って良い提案をしていきたいと思ひます。いずれにしましても、これまでの委員会での積み重ねや検討内容、過去の提言を尊重し、協議・検討をしていただきたいと思ひます。皆様方のご協力のほど、よろしくお願ひいたします。」</p>
美甘課長	<p style="text-align: center;"><b>会議に関する説明・資料の確認</b></p> <p>下記事項の説明を行い、その後、資料の確認を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 会議の終了予定時刻（午前12時）。</li> <li>○ 会議の公開と会議録の方式（要約方式、会長の承認・署名をもって確定する）。</li> <li>○ 傍聴希望者0名、報道機関1名。</li> <li>○ 早稲田大学学生が2名出席すること。</li> <li>○ 所沢市社会福祉協議会、コミュニティ推進課、こども支援課職員が出席すること。</li> </ul> <p>「それでは、本日の議題に移らせていただきます。前橋会長、進行をお願いします。」</p>
前橋会長	<p style="text-align: center;"><b>3. 議 題</b></p> <p>議題（1）「地域福祉計画に関わる事業の進捗状況について（報告）」について、事務局に説明を求めた。</p>
山崎主幹	<p>当委員会の目的・役割を再確認した上で、資料「計画の推進に関わる施策調査一覧表」に沿って下記事項の説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一覧表作成の目的・意義。</li> <li>○ 提言書の内容に関連した事業内容、状況について。</li> </ul> <p>（A-I-1 学校教育課「総合的な学習の時間における福祉施設などとの交流」）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ いずれの項目においても、過去の提言内容が反映され、正しい方向に向かっていることが示されている。</li> </ul>
前橋会長	<p>「ただ今の説明に対し、ご質問やご意見などがありましたら、お受けいたします。」</p>
神武委員	<p>「A-III-6「余裕教室の有効活用の推進」について、地域福祉計画を策定する際には、</p>

	<p>地域の人たちが使えるという意味での有効活用だったと思いますが、一覧表に掲載されているのは、児童の活用状況になっていると思いますので、計画策定時の目的や目標基準と掲載されている事業の整合性について、改めて確認していただければと思います。」</p>
美甘課長	<p>「貴重なご意見をありがとうございます。余裕教室の地域での活用につきましては、若松小学校において、老人簡易集会所「わかば」として活用している例がございます。」</p>
前橋会長	<p>「担当課と調整していただき、整合性のある事業を追加していただく等の対応をお願いします。」</p>
美甘課長	<p>「承知いたしました。」</p>
神武委員	<p>「地域福祉計画策定の際、福祉に関する施策について、縦割り行政ではなく、市全体で横断的な連携を図るという考えがあり、その取り組みに対する進捗状況だったと思いますので、よろしくをお願いします。」</p>
前橋会長	<p>「貴重なご意見をありがとうございます。他にはありますか。」</p>
岡村委員	<p>「福祉教育について、学校教育における部分で説明していただきましたが、前回のアクションプランで、地域での取り組みの必要性を確認していますので、学校教育現場以外での取り組み状況で、何かあれば教えてください。」</p>
山崎主幹	<p>「一覧表２ページ目「Ａ－Ⅲ－５」、青少年課所管の『各児童館で実施している児童館まつり、季節行事』や、１９ページ目「Ｅ－Ⅱ－２」、保育課所管の『情報提供や地域子育て支援センター等の育成』といった既存の行事やサークル活動の場が、今後、学校教育現場以外での福祉教育が行われる可能性があるものとして捉えております。」</p>
岡村委員	<p>「今の説明は、子どもに対してというのが中心かと思いますが、例えば、認知症サポーター養成講座は、子どもに限らず、幅広い世代の方に対して福祉への理解を深めていくということで、福祉教育の側面をもっていると思います。そのような、子どもだけでなく、広い取り組みの内容も掲載されればと思います。」</p>
前橋会長	<p>「今の関連になりますが、保・幼・小・中ですとか、保育課やこども支援課などとの連携で、余裕教室の活用などがありましたら、検討し、掲載をお願いします。」</p>
美甘課長	<p>「まず、認知症サポーター養成講座は、介護者の方を含め、幅広い方を対象に、高齢者支援課が実施し、実績もあると聞いております。また、その他の事業につきましても、今後どのような取り組みができるのか、関係機関と連絡・調整を図り、経過を当委員会でご報告できればと思います。」</p>

前橋会長	<p>「よろしく願いいたします。一覧表について、何かありましたら、後でも結構ですので、ご意見をいただければと思います。」</p> <p>議題（２）「提言書作成に向けての検討」について、事務局に説明を求めた。</p>
山崎主幹	<p>これまでの経緯を含め、下記事項の説明を行った。</p> <p>○第１期、第２期においては、委員会での検討結果を踏まえ、市長へ提言書を提出しており、第３期も市長へ提言を行う。</p> <p>○第２期においては、第１期の提言の重点施策を踏まえ、「次世代につながる地域福祉の推進」、「自助と共助の土台づくり」に視点を置き、福祉教育の実践活動と検証を実施した。</p> <p>○参考として、前回の提言１（福祉教育）に関わる、保育園・児童館の所管課へのヒアリング調査結果を報告した。</p>
前橋会長	<p>「ただ今の説明に対し、ご質問やご意見などがありましたら、お受けいたします。（発言者なし）。それでは、所管から説明があれば、お願いします。」</p>
堀内まちづくりセンター推進室長	<p>資料「まちづくりセンターを開設しました」に沿って、提言書「提言２ 地域福祉のさらなる推進のための協働・連携に関する提言」、「①「まちづくりセンター」と「地域福祉ネットワーク会議」の連携」に関する部分を中心に、下記事項の説明を行った。</p> <p>○まちづくりセンター事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりセンターは、地域コミュニティ推進の拠点として、昨年４月１日に市内全１１地区の公民館と出張所を統合して組織された。</li> <li>・設置目的は、①地域のコミュニティ関係団体の支援のための推進体制の強化、②公民館と出張所が別々に地域のコミュニティに関わってきた地域支援の窓口の一体化。</li> </ul> <p>○地域ネットワークについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での課題が複雑化・多様化する中で、団体同士が連携・協力することにより、効果的かつ効率的に解決できるよう、ネットワーク組織を再構築しようというもの。</li> <li>・役割は、会議などを通じて情報交換を行い、地域が抱える問題や課題を発見し、その解決に取り組むとともに、地域の交流活動を促進する。</li> <li>・活動としては、地域に関する学習、地域課題の共有、地域活動の実践を想定している。</li> <li>・部会を組織することを想定している。</li> <li>・地域福祉活動は、“地域で支え合う、”という意味で、まさしく“コミュニティ活動、”であり、既にネットワーク組織（地域福祉ネットワーク会議、地域ケア会議など）が構築されている地区は、新たに組織を立ち上げるのではなく、既存組織の活用を想定している。</li> <li>・社協や関係団体、関係部署などと連携・調整を図っているほか、１１地区で意見交換会を開催している。</li> </ul>

	<p>・平成26年度までに全地区での立ち上げを予定している。(地域住民の合意が大前提)</p>
前橋会長	<p>「提言2のまちづくりセンターに関する部分について、情報提供をしていただきました。ただ今の説明に対し、ご質問やご意見などがありましたら、お受けいたします。」</p>
吉田委員	<p>「地域福祉ネットワーク会議や、地域包括支援センターが行っている地域ケア会議など、いくつもの会議があり、現場は混乱しているのが現状です。ネットワーク会議とまちづくりセンターの体制がどうなるかわかりませんが、現場が混乱しないような、ひとつのネットワーク体制を構築していただければと思います。」</p>
前橋会長	<p>「社協との連携ということで、いかがでしょうか。」</p>
堀内室長	<p>「地域ネットワークは、福祉に限らない、広いネットワークを想定しております。その中で、今後、分野ごとに部会を組織することを考えておりますが、地域福祉ネットワーク会議を福祉部会と位置づけ、社協と話し合いを行っているところでございます。」</p>
前橋会長	<p>「吉田委員、いかがでしょうか。」</p>
吉田委員	<p>「よろしく願いいたします。」</p>
山江委員	<p>「富岡の場合、地域福祉ネットワーク会議はまだ設立されていませんが、地域ケア会議があり、この会議が福祉部会として組織されていくのが良いのではないのでしょうか。また、社協の地域福祉コミュニティ推進事業の定例会があり、この会が地域福祉ネットワーク会議の役割を果たしている気がしますので、それを含めて整理していただければと思います。自治会や民生委員の方が全ての会議に出席するのも大変だと思いますので、まちづくりセンターの地域ネットワークの部会という位置づけの方が整理されていくのではないかと思います。」</p>
前橋会長	<p>「黛委員、社協の立場から何かありますか。」</p>
黛委員	<p>「住民の方々が参加しやすい、わかりやすい仕組みが整備されればと考えています。また、社協が主導で進めるよりも、地区ごとのやり方で淘汰されていけばと思っておりますが、社協からある程度の方針を示してほしいという地区の方からの声もありますので、コミュニティ推進課と相談しながら進めているところです。」</p>
前橋会長	<p>「それぞれの方の意見を反映しながら、調整していただければと思います。提言2に関する部分について、他にご質問はありますか。(発言者なし)。では、先ほど、事務局より提言1に関して、保育園や児童館での取り組みの現状を導的に説明していただきましたが、現場の職員が、福祉や福祉の心とは何か、共通理解がもてていないのではないかと、</p>

北田副主幹	<p>という印象を受けました。実際には、それなりの形で伝えられていると思いますが、構えて捉えてしまっているような気がします。今日は、担当の方はいらしていますか。」</p> <p>「本日は、業務の都合で担当者は来ておりませんが、保育課と青少年課の職員へヒアリングを行っており、先ほどの補足になりますが、説明いたします。</p> <p>福祉について、概念にとらわれずに自然と身につくようになればと考えているとのことです。ただ、職員への研修については、様々な職員向けの研修はあるものの、福祉教育という観点からの研修は、その必要性を認識しつつも、講師やプログラムをどうするかといったノウハウがなく、どう始めれば良いかわからないという声がありました。」</p>
前橋会長	<p>「今の説明に対して、何かありますか。」</p>
岡村委員	<p>「福祉教育は、講座を設けて行うものだけではなく、日常的なふれあいの中で考えたり、身につけたりできるような取り組みだと思います。先生方を含め、関係する方たちが、福祉教育についての考え方を深めていく必要があるのではないかと感じました。」</p>
前橋会長	<p>「他に何かありますか。」</p>
豊田委員	<p>「児童館についてですが、児童におやっと思ふ行動があった場合、館長が、小学校や児童相談所へ赴いて、情報提供をしているという話を伺ったことがあります。そういった観点から、講座を開かなくても、現場の生の声ということで、情報交換はなされているのではないかと思います。」</p>
内藤部長	<p>「関係機関における福祉教育について、現場では、「福祉教育」という言葉を使わずとも、誰をも排除せずに仲良くしよう、いじめをしないようにしよう、という取り組みや、社会科学的な見地から歴史を学ぶ等、「福祉教育」や「人権教育」といったカテゴリー以外の部分において、広い意味で福祉教育はなされていると考えております。</p> <p>また、現在の課題のひとつとして、乳幼児への虐待があり、学校や保育園、幼稚園、保健センター等が連携し、シビアな議論もなされております。そのような中で、ベテランの母親が、若い母親を励ますということも、本人には「私は、福祉教育をしました。」という意識はないものの、福祉教育であると、私は思います。</p> <p>議題（１）で学校教育における総合学習での取り組みの話がありましたが、私は以前、教育委員会の社会教育課で、家庭教育学級に取り組んでおりました。学習プログラムは親御さんが決めますが、共通講座ということで、人権に関する講座を続けてきましたが、ノーマライゼーションやソーシャルインクルージョンという言葉が、用語として浸透してきているという意味で、福祉教育がなされていると自負しております。ただ、現場によって温度差はあるかと思しますので、いただいたご意見は、担当課に伝えたいと思います。」</p>
前橋会長	<p>「ありがとうございます。他に何かありますか。（発言者なし）。引き続きアイデアが</p>

<p>梅本主任 (社協)</p>	<p>出てきましたらお願いします。</p> <p>次に、提言2に関する部分について、社会福祉協議会の方から地域福祉ネットワーク会議に関することも説明していただければと思います。」</p> <p>資料「地域福祉ネットワーク会議の取り組み」に沿って、地域福祉ネットワーク会議について、下記事項の説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域福祉活動計画 in 所沢」の重点政策に位置づけられている。</li> <li>○様々な分野の課題について情報を共有し、地域ごとの特性を生かした取り組みを考え、話し合う場である。</li> <li>○構成団体は、自治会・町内会や、民生委員、地域包括支援センター、障害の相談支援機関、子ども関係の団体といった福祉関係のボランティア団体などである。(地区により異なる。)</li> <li>○活動内容は、地域課題の共有や各団体の情報提供、研修会の主催・開催、広報誌の発行、福祉協力員活動などである。(地区により異なる。)</li> <li>○立ち上げは、平成20年度にスタートし、5地区で完了している。平成23年度は、地域ネットワークとの兼ね合いで新地区の立上げは着手していない。 (H20：山口地区、H21：三ヶ島地区、新所沢地区、H22：松井地区、柳瀬地区)</li> <li>○今後、市のネットワークづくりと福祉のネットワークづくりを、どのように整合性を保ちながら進めていくのか、協議を続けていく。</li> </ul>
<p>前橋会長</p>	<p>「ありがとうございます。ただ今の説明に対し、ご質問やご意見などがありましたら、お受けいたします。」</p>
<p>黛委員</p>	<p>「補足ということでお話しをさせていただきます。地域福祉活動計画について、近隣市町村を見ても、地域福祉活動計画を地区ごとに策定しているところもあります。所沢市は34万人都市であり、1つの活動計画で収まるわけはありません。先ほどの話にもありましたように、課題が地区で異なっているということは、地区ごとに活動計画があつて良いのかなと考えております。会議が重複していてわかりにくいという話についても、計画をしっかりと定めれば、会議のミッションそのものが明確化されますので、参加する方の意識も自ずと決まってくるかと思えます。ですから、地区ごとの課題に則した計画を、それぞれ定めていきたいというのが、社会福祉協議会の考えです。」</p>
<p>前橋会長</p>	<p>「ありがとうございます。では、次に進む前に、今までの部分で何かありましたら、お受けいたします。」</p>
<p>神武委員</p>	<p>「先ほど、黛委員から地区ごとの活動計画の策定というお話がありましたが、地域福祉計画の「計画の推進に向けて」の中で、地区活動計画の必要性について記載がありますので、この地域福祉推進検討委員会においても、まちづくりセンターもですが、地域福祉ネットワーク会議が中心となって、地区活動計画を策定していこうという提言が、今後、必</p>

	<p>要なのかなと思います。」</p>
前橋会長	<p>「ありがとうございます。他にありますか。（発言者なし）。事務局から、何かありますか。」</p>
内藤部長	<p>「地区活動計画ですが、大変良い提言だと思います。計画にもありますし、積極的に進めていくべきものだと思います。ただ、計画ありきでいきますと、建前的なことが多くなってしまうという面もありますので、地区内での気運を高め、福祉的ニーズを共有することが大事だと思います。</p> <p>例えば、自治会がかなり組織化されていけば良いのですが、自治会の加入率が落ちているところもあります。特に、高層マンションは加入率が非常に低いのですが、そのような場合でも、管理組合が、自治会が行っているような、餅つき大会や七五三、バーベキュー大会などの交流行事を行っているケースがあると聞いたことがあります。なぜ、このような話をしたかと申しますと、緊急通報システムや見守り隊、民生委員による要援護者調査など、市もいろいろと取り組んでおりますが、残念ながら、孤独死が発生しております。その対策をどうするかといった場合に、やはり情報共有が大事だと考えます。ですから、計画だけでなく、地域福祉ネットワーク会議や地域ネットワークといった組織で、先ほどのような課題を取り上げるといったような、情報共有を大切にいただければと思います。」</p>
前橋会長	<p>「ありがとうございます。他にありますか。」</p>
山江委員	<p>「地域ケア会議はすでに始まっており、地域福祉ネットワーク会議については、始まっている地区とまだの地区もあるということですが、富岡はまだなので、地域ケア会議に社協の方が出ていただくと良いかと思います。また、地域ごとに課題が異なっていると思いますし、地域の特性を生かしてということであれば、今まで行ってきたことの積み重ねと新しいものがうまく組み合わさっていけば良いと思います。</p> <p>包括支援センターの活動では、医療機関のような専門機関との連携が重要ですが、もちろん、地域とのつながりも必要なので、まちづくりセンターの体制にこの会議がうまく組み込まれていくのが良いのかなと、皆さんの意見を聞いていて思いました。」</p>
前橋会長	<p>「ありがとうございます。所管の方においては、今後も新たな動きや報告などがありましたら、この会議でお知らせいただければと思います。」</p> <p>議題（３）「（仮称）所沢市総合福祉センター（複合施設）について」、事務局に説明を求めた。</p>
水村副主幹	<p>資料『（仮称）所沢市総合福祉センター（複合施設）基本計画（素案）』に沿って、下記事項、および、基本計画（素案）の内容説明を行った。</p>

	<p>○「第5次所沢市総合計画 前期基本計画」に、今後、4年間に重点的に取り組む事業「(仮称)所沢市総合福祉センター(複合施設)整備事業」として位置づけ、平成22年12月議会において、承認が得られている。</p> <p>○「所沢市地域福祉計画の施策推進に関する提言書」(平成23年3月30日)においても、総合福祉センターにおける人材育成機能の整備が位置づけられている。</p> <p>○上記のことから、「所沢市総合計画」との整合を図るため、「所沢市地域福祉計画」にも(仮称)所沢市総合福祉センター整備事業を位置づけた。</p> <p>○『(仮称)所沢市総合福祉センター(複合施設)基本計画(素案)』は、庁内関係部署との協議・検討を経てまとめたもので、3月に関係団体や機関などへ説明会を開催し、意見集約を行っていく。</p> <p>○当委員会においても、「提言」として、「所沢市地域福祉計画」に具体的な位置づけを行うとともに、基本計画(素案)にも反映していきたい。</p> <p>○基本計画(素案)は、平成24年夏頃を目途とし、成案としてまとめていきたい。</p> <p>○平成24年度は、基本計画(素案)検討のため、委員会の開催を3回程増やす予定である。</p>
前橋会長	<p>「ありがとうございます。ただ今の説明に対し、ご質問やご意見などがありましたら、お受けいたします。」</p>
神武委員	<p>「総合相談や子ども支援など、機能がたくさんあるようですが、関係部署の職員がセンターに移るといえることですか。」</p>
美甘課長	<p>「総合相談機能につきましては、社会福祉協議会で行っている、障害者の相談支援や就労支援といった既存事業があり、また、新たに設けます、ニートやひきこもり等の若者自立支援があります。このような施策につきましては、積極的な取り組みがなされている自治体は全国的にもまだ少ない状況ですが、埼玉県内には、若者を中心とした就労支援相談を実施する地域若者サポートステーションを設置しているところもございます。</p> <p>総合福祉センターは、平成28年4月の供用開始を目指しておりますが、既存事業を活かし、ランニングコスト、人件費についても最小の経費で最大の効果を、と考えております。また、政策企画課や法規関係部署など、様々な担当で構成されます、庁内のプロジェクトチームにおいても、総合相談を実施していくための人員配置や予算対応、法的整備などを踏まえて検討しますし、当委員会でいただいたご意見も、成案に盛り込んでいければと考えております。」</p>
神武委員	<p>「センターの機能と社協は、別のものとして連携をとるイメージがあります。しかし、9ページの図や19ページの表だと、社協と子ども支援センターが下支えとしてセンターを担っていくのか、意味がわかりにくいです。」</p>
内藤部長	<p>「具体的な業務を誰がどう担うかというのは、これから詳細を検討していくところです。」</p>

	<p>が、これまでの経験を踏まえてお願いするのが良いかと思えます。また、すでに社協に委託している事業の見直しや統廃合などについては、これから検討してまいります。介護関係や障害関係など、社協にも様々な側面がありますので、そういったものを積極的に紹介できるようにと考えております。</p> <p>総合福祉センターについて提言をいただいた当初は、利用者の利便性のような面が強かったのですが、発達障害者支援法や障害者虐待防止法、障害者自立支援法の成立により、行政の役割を担う施設としての側面が強くなっています。</p> <p>いずれにしましても、この素案を示したことで、短期間ですが、様々なご意見をいただければと思います。」</p>
前橋会長	<p>「ありがとうございます。他にありますか。」</p>
柴井委員	<p>「19ページ、④ボランティア活動支援機能の必要スペースに、印刷室とありますが、これはボランティアの人が専用を使う場所なのでしょうか。また、つくる会が要望していた録音室や点訳室があるので安心しましたが、盲卓球のスペースは別個で作っていただけるのでしょうか。盲の方は、音で卓球をするため、ある程度の防音がないとやりにくいと団体の方から聞いておりますので、お聞かせください。」</p>
水村副主幹	<p>「まず、印刷室につきましては、ボランティアの方はもちろん、様々な団体や地域の方にも開放し、皆さまにお使いいただくということで考えております。2点目の盲卓球の部屋につきましては、素案には詳細な部分については、記載しておりませんが、現在、個室の設置を考えているところでございます。」</p>
前橋会長	<p>「他に何かありますか。」</p>
福田委員	<p>「子どもに関する支援について、子ども支援センターのイメージが16ページにあります。ハード面が整備されたあかつきに、ソフト面はどのようにグレードアップしていくのでしょうか。機能は、現在のものを引き継ぐものが多いのかと思えますが、現在行っているものに加わるものもあるのでしょうか。」</p>
二上課長	<p>「こども支援課長の二上と申します。例えば、現在、地域子育て支援センターが市内に16ヶ所、私立保育園と公立保育園内に設置されています。現状の問題として、セキュリティの関係で、保育園へ入るのが簡単ではないというのがひとつと、地域の方々、保育園をあまり訪れたことがないために入りにくい、ということがあります。</p> <p>新しい子ども支援センターは、広場型を想定しており、面積が約900㎡、広場は500㎡ということで考えており、相談や親同士の情報交換ができればと考えております。</p> <p>また、先ほど申しました、市内16ヶ所地域子育て支援センターの中核の場になると考えており、各子育て支援センターとの連携強化が図られると考えております。」</p>

<p>福田委員</p>	<p>「これと関連するのですが、平成21年度の合計特殊出生率について、全国は1.37、埼玉県は1.28、所沢市は1.18です。出生数も昭和48年は約209万人だったのが、現在は100万人強ということで、全国的に下がってきていますが、所沢市の出生率が低いのは、ソフト面の問題があるかと思います。これを機になると平成28年度になってしまいますし、今、真剣に考えていかないといけないと思います。ソフト面の強化について、何かあるのでしょうか。」</p>
<p>二上課長</p>	<p>「子育てへの取り組みについて、もっと相談ができるような場が必要であると考えています。現状ですが、児童虐待について年間100件程度の相談を受けておりますことから、家庭内での孤立化やノイローゼといった問題を抱えている方が、相談できる場や情報共有できる場が必要ではないかと考えております。また、平成21年度からこども未来部ができて、高層棟2階にこども相談センターを設置し、年間1,000件を超える相談を受けております。そのような需要がある中で、ハード整備を進めております。」</p>
<p>内藤部長</p>	<p>「子どもへの支援につきまして、以前、子ども関係の部署は保健福祉部の中にありましたが、子どもに特化した施策を重点的に取り組むということで、前市長の時に、こども未来部を創設しました。</p> <p>所沢市は、保育園の充実度が高いと経済誌に掲載されたこともあります。ご指摘のとおり、出生率の低下は全国的な傾向ではありますが、所沢市の場合、人口の急増が一段落し、今度は高齢化が襲ってきている状況で、過去から引きずっている課題は複数ございます。子ども支援センターにつきましては、こども未来部と保健福祉部とが協力し、進めていこうと考えております。」</p>
<p>前橋会長</p>	<p>「他に何かありますか。」</p>
<p>黛委員</p>	<p>「3.11以後、ボランティアをしたいという市民のニーズが増えており、社協は現在、新潟への除雪ボランティア派遣にも関わっております。相談機能も必要だと思いますが、総合福祉センターには、ボランティア活動の拠点として、ボランティア活動者を支援する機能も期待しております。災害については、市民の方も注目しておりますので、社協も頑張っていきたいと考えております。」</p>
<p>前橋会長</p>	<p>「ありがとうございます。」</p>
<p>山江委員</p>	<p>「人材育成についてですが、この間、まちづくりセンターで会議をした時、いろいろな団体の方が、人材不足や後継者がいないことを課題として挙げていました。総合福祉センターの中で、人材育成に力を入れていただき、それが各地域に発信できればと思います。」</p>
<p>福田委員</p>	<p>「防災の話が出ていますけれども、地域には自主防災という組織があるかと思います。」</p>

	<p>3. 11の際には、伝達の遅れによって被害が大きくなったところもあると聞いていますが、大きな災害が起きた場合の、まちづくりセンターの関わり方や、連絡・伝達方法について教えてください。」</p>
堀内室長	<p>「まちづくりセンターは、各地区の現地対策本部という機能を有しており、その役割につきましては、3. 11後、さらに強化すべく、庁内でも調整を進めております。」</p>
内藤部長	<p>「今回の3. 11というのは、想定外のことがたくさんありました。地震発生後、市役所でもすぐに会議をしたり、関係施設や職員の状況把握をしたりしましたが、とにかく電話が繋がらなかったのが、通信手段のことは課題になりました。また、帰宅困難者についても、想定外のうちのひとつでした。当初は、所沢市民が都内から帰宅できない、ということ想定しておりましたが、実際には、市内の各駅に、市外へ帰宅できずに留まっている人が大勢いました。そのため、近くの公共施設を開放しましたが、その時、町内会館を快く開放してくださった自治会があり、非常に嬉しく、ありがたく思いました。これは、自治会活動として非常に高い評価ができると思います。</p> <p>今後は、懸念されている東海地震の発生や立川断層について注視していく中で、防災計画の見直しを進めてまいります。また、地域のコミュニティについて、阪神・淡路大震災の報告においても、「自助」、「公助」、「共助」の他に、近くの人たちで助け合う「近助」という言葉がよく使われていますが、現地対策本部である、まちづくりセンターが音頭を取って防災対策を進めていくことが必要だと思います。</p> <p>現在、自治会の会長さんはいろいろな会議に呼ばれていて、本当に忙しいかと思いますが、将来的には、自治会の中で、防災担当、青少年・福祉担当、交通安全担当というような形ができるのではないかと思います。ただし、それを行政が一方的にお願いするのではなく、目標をもって、いっしょに進めていかなければならないと思います。」</p>
前橋会長	<p>「では、最後におひとり、いらっしゃいますか。」</p>
柴井委員	<p>「つくる会とボランティア連絡協議会は、以前から総合福祉センターに関する協議を進めておりましたが、市長が変わるたびに延び延びとなっております。平成28年度の供用開始ということですが、1日でも早く作っていただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。」</p>
前橋会長	<p>「ありがとうございました。総合福祉センターは、長い時間を費やして素案に至ったということで、この委員会でもいろいろと勉強し、話し合い、良い案を出していきたいと思えます。ここで、素案に対する意見の提出方法について、事務局から説明をお願いします。」</p>
水村副主幹	<p>次のとおり説明した。</p> <p>○意見がある場合は、3月23日（金）までに福祉総務課へ連絡・提出する。</p> <p>○方法は、電話、FAX、メール等で、様式は問わない。</p>

前橋会長	「その他」について、事務局に説明を求めた。
持丸主事	<p>今後の予定について、次のとおり説明した。</p> <p>○ 平成24年度は通常の委員会2回の他に、センターについての委員会を2～3回行う予定である。</p>
前橋会長	「他に何かありますか。」
岡村委員	「社会福祉協議会の地域福祉活動計画が、平成23年度までということで、策定の進捗状況や、次年度の方向性について、黛委員からご報告いただければと思います。」
黛委員	「現在は、推進会議委員をベースとした作業部会を開き、4月1日に間に合うように策定を進めております。わかりやすいということと、計画期間については、第2次所沢市地域福祉計画の策定と合わせるため、3カ年で進めております。」
前橋会長	「それでは、また何かありましたら、ご報告いただければと思います。他にはございませんか。（発言者なし。）それでは、全ての議題が終了しましたので、進行を事務局にお返しします。ご協力をありがとうございました。」
	<p style="text-align: center;">4. 閉 会</p> <p>会議を閉会した。</p>

第2回会議録として承認する

会長署名